

文化庁 × 九州大学 「文化芸術による社会包摂の在り方」公開研究会

文化事業の評価

現場 × 行政

それぞれの視点をつなぐ

[登壇者]

片山正夫

公益財団法人セゾン文化財団 理事長

源由理子

明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科 教授
明治大学プログラム評価研究所 代表

大澤寅雄

(株)ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室 主任研究員

中村美亜

九州大学大学院 芸術工学研究院 准教授

村谷つかさ

九州大学大学院 芸術工学研究院 学術研究員

朝倉由希

文化庁地域文化創生本部 総括・政策研究グループ 研究官

[司会]

長津結一郎

九州大学大学院 芸術工学研究院 助教

2019年
9月25日

[水] 15:00-18:00 (開場 14:30)

ワイム貸会議室 お茶の水 Room A

東京都千代田区神田駿河台2丁目1-20 お茶の水ユニオンビル4階

参加費 = 500円 (日本文化政策学会 会員: 無料) 要事前申し込み 定員 = 90名 (先着順) 申し込み方法は、裏面をご覧ください。

主催: 九州大学大学院芸術工学研究院ソーシャルアートラボ、日本文化政策学会

共催: 公益財団法人福岡市文化芸術振興財団 協力: 文化庁地域文化創生本部、NPO法人ドネルモ

後援: 日本アートマネジメント学会九州部会 助成: 2019年度 文化庁 大学における文化芸術推進事業

※本研究会は、日本文化政策学会会員企画提案制度による「研究会」として開催します。

※本研究会での報告内容は、九州大学が2017年度より実施している「文化庁と大学・研究機関等との共同研究事業」における調査に基づいています。

九州大学 | 大学院芸術工学研究院



大学から



文化事業の評価

現場 × 行政

それぞれの視点をつなぐ

文化事業における「評価」のあり方への関心が高まっています。評価手法に関するセミナーの開催やブックレットの刊行も増えてきました。しかし、事業評価や報告書作成に多大な時間や労力をかけているのに、何に役立っているのかわからないという声も耳にします。

そこで本研究会では、文化事業における評価のあり方について再考を試みます。特に「社会包摂につながる文化事業」に注目し、実践現場や行政で行われている異なる段階の評価について、相互の関係性や接続の可能性に関し情報共有と問題提起を行います。ゲストの意見を伺いながら、参加者のみなさまとも議論をすることで、何のために「評価」をするのかを立ちどまって考えます。

プログラム
(予定)

ご挨拶 三木忠一（文化庁 地域文化創生本部事務局長）

第1部 プレゼンテーション

文化事業における評価の現状と課題 大澤寅雄
インタビュー調査から見えてきたこと 村谷つかさ
評価への向き合い方に関する提案 中村美亜
コメント 片山正夫・源由理子

第2部 ディスカッション

モデレーター 朝倉由希
司会 長津結一郎 ※当日変更の可能性あり



[ゲスト]

片山正夫 かたやままさお
公益財団法人セゾン文化財団理事長

1958年兵庫県西宮市生まれ。（一財）非営利組織評価センター理事長、（公財）公益法人協会理事、（公財）助成財団センター理事、（公財）ジョイセフ理事、アーツカウンシル東京・カウンシルボード委員を兼任。慶応義塾大学非常勤講師。著書に『セゾン文化財団の挑戦』、共著に『民間助成イノベーション』、『プログラム・オフィサー』等。



源由理子 みなもと ゆりこ

明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科教授
明治大学プログラム評価研究所代表

専門は、評価論、社会開発論。改善・変革のための評価の活用をテーマとし、政策・事業の評価手法、評価制度構築、参加型・協働型評価に関する研究・実践を積む。明治大学プログラム評価研究所では行政、NPO、財団等の評価実践現場を支援。日本評価学会理事。国際基督教大学卒、東京工業大学大学院社会理工学研究科博士後期課程修了、博士（学術）。

主な対象者

- 文化事業に携わる行政職員
- 文化事業を実施している団体や個人
- 芸術活動と社会包摂に興味のある方

参加費：500円（日本文化政策学会 会員：無料） *要事前申し込み

- * 研究会では、音声を文字化するアプリ「UDトーク」を活用したりリアルタイム字幕をご提供します。
- * 会場はトイレの個数が限られています。また多目的トイレもございませんので、ご利用の方には近隣の施設をご案内します。
- * その他、当日の配慮についてご要望等がありましたら、可能な範囲で対応いたしますので、メール・FAXもしくは申込フォームにてご連絡ください。

お申し込み・お問い合わせ

下記の項目を記載のうえ、メール・FAXのいずれかよりお申し込みください。またソーシャルアートラボ公式ホームページ内「CONTACT」からもお申し込みいただけます。

《記載事項》

- ①氏名 ②フリガナ ③メールアドレス ④電話番号 ⑤居住地（都道府県）
- ⑥所属など（任意） ⑦受講の動機

*日本文化政策学会の会員の方はその旨明記してください。

2019年9月20日 [金] 申込締切

九州大学ソーシャルアートラボ

tel/fax 092-553-4552
mail sal-cul@design.kyushu-u.ac.jp
web http://www.sal.design.kyushu-u.ac.jp
facebook ソーシャルアートラボ



文化庁と九州大学の共同研究チームは、2018年度に社会包摂につながる芸術活動に関するハンドブックを作成しました。詳しくは、九州大学ソーシャルアートラボのウェブサイト (publicationsのページ) をご覧ください。

<http://www.sal.design.kyushu-u.ac.jp/publications.html>

はじめての“社会包摂×文化芸術”
ハンドブック



ワイム貸会議室 お茶の水

東京都千代田区神田駿河台2丁目1-20
お茶の水ユニオンビル4階
<http://waim-group.co.jp/space/ochanomizu/access.html>

- ◎JR中央線・総武線「御茶ノ水」駅
御茶ノ水橋口 徒歩2分
- ◎東京メトロ丸ノ内線「御茶ノ水」駅
2番出口 徒歩3分
- ◎東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅
B1番出口 徒歩4分



九州大学ソーシャルアートラボ

九州大学ソーシャルアートラボは、社会の課題にコミットし、人間どうしの新しいつながりを生み出す芸術実践を「ソーシャルアート」と捉え、新しい生の価値を提示していくことを目的としています。2018年からは、《アートと社会包摂》をテーマに研究・教育・実践・提言の多方面から取り組んでいます。

ウェブサイト <http://www.sal.design.kyushu-u.ac.jp/>